

第26回

## 心躍る

# おいしい魚介と おいしいワイン

夏はおいしい魚介類を食べたくなる。そんな時に思い出すのは奥尻島。夏前に旅の取材で行ったことがあるが、かれこれ12年以上前だったと思う。

1泊2日の旅で宿は漁師が営む「旅の宿 大須田」さんに取材を兼ねて宿泊した。新鮮な魚介料理が有名な宿でとても美味しかった。もっとも行った時期が早かったらしく、お目当てのウニは解禁前で、食べることができなかったのがとっても残念だった。

翌日は奥尻ワイナリーを取材させてもらった。島の西側に位置するワイナリーは山の上であり、山の斜面に葡萄畑が広がっている。対馬暖流が流れているので奥尻の冬は温暖なのだそうだ。そのおかげで、潮風に吹かれつつもたくましくぶどうが育っているのだそうだ。そんなワインは、奥尻の自然がギュッと詰まった美味しさがある。昨日のうちにこのワインを買って、大須田さんの魚介に合わせたらどんなに美味しかっただろうと反省しきり。

フェリーまでの時間があつたので青苗地区にある奥尻島津波館に行ってみた。1993年の北海道南西沖地震の記憶がまだ十二分に残っている頃だ。きっと住宅がたくさんあつたであろう地区は何もなく、その突端に海と空に挟まれて津波館は建っていた。もうそれだけで胸がいっぱいになった。周りにはハマナスが生い茂っていて、その光景が目焼き付いている。

最近はおちこちで奥尻ワインを見かけるようになった。飲むたびに奥尻の風景を思い出す。今はどんなふうになっているだろう？次はいつ行けるだろう？今度こそは奥尻島のウニのシーズンに行つて、奥尻ワインを飲むぞ！と心密かに決めている。奥尻の空の下で！



## すずき もも

イラストレーター・絵本作家/スローフードさっぽろリーダー

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつはたけのごちそうなーんだ？」(アリス館)「おいしい大地、北海道」(イースト・プレス)がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ？くだもの」(アリス館)がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ」。



奥尻島津波館\*

2001年にOPEN!  
 災害の記憶を残し、  
 そこから学んだ事を教訓  
 として伝えています\*

ウニ丼

ウニの  
 シーズンは  
 5~8月  
 中旬まで!  
 アワビは  
 通年! 島内の  
 宿や食事の  
 店で食べよう!

奥尻  
 ワイナリー  
 100年先の  
 ワイン作りを!

奥尻島のシンボル  
 ちまべつる岩! ワインの  
 ラベルにもちまべつるよ!

わっくりに  
 参りたいサ